

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 川口元郷教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 11日		2026年 2月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2026年 2月 11日		2026年 2月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援の質の高さと信頼関係: 保護者から、本人の特性を見極めた的確な支援と、先生方との強い信頼関係が非常に高く評価されています。	多角的なフィードバックの実施: アプリでの連絡に加え、送迎時の対話を通じて子どもの発達状況や最新の支援案を直接伝えるよう努めています。	保護者交流コミュニティの創出: 家族支援を強化するため、保護者同士が悩みや情報を共有できる「保護者会」を計画的に開催します。
2	ICTを活用した透明性の高い情報発信: SNSや連絡帳アプリを通じた写真付きの活動報告により、日々の様子が可視化され、保護者に大きな安心感を与えています。	子どもが安心できる環境の構造化: 本人が通所を楽しみ、落ち着いて活動できるよう、清潔で分かりやすく構造化された空間維持を徹底しています。	客観的視点による質向上: 第三者評価を積極的に受審し、事業所の課題を外部の視点から可視化することで、継続的な業務改善に繋がります。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部・地域ネットワークとの接点不足: 自立支援協議会への不参加や地域住民との交流機会の欠如など、地域に開かれた運営が不十分です。	企画・運営リソースの不足: 日々の支援業務を優先するあまり、保護者会や地域イベントを計画・実行するための環境づくりが後手に回っていました。	当日振り返りフローの徹底: 支援終了後に必ず当日中に職員間で打合せを行う時間を確保し、情報の鮮度が高い状態での意見交換をルーチン化します。
2	組織内コミュニケーションの即時性: 支援終了後の振り返りが翌日になることがあり、職員間での気づきの共有にタイムラグが生じています。	連携体制構築への意識不足: 地域関係機関との繋がりを挨拶程度に留めてしまい、具体的な協力体制の構築や協議会参加の重要性の認識が不足していました。	専門性を高める研修機会の拡充: 職員の資質向上のため、外部研修の受講を推奨し、得られた知見を内部で共有する仕組みを作ることで組織全体の底上げを図ります。
3			